

1年1組

 朝顔と共に在る わたしたちの暮らし
 ～あさがおさんとのかわりを通して
 自分事として動き出し 成長していく子ども～


冬にも会えたね わたしのあさがおさん

「冬にもあさがおさんに会いたい」という子どもたちの願いからスタートした『冬に朝顔を咲かせようプロジェクト』。11月下旬でも昼間は約30℃程までの室温になっていたビニールハウスだったため、蕾もできていよいよ開花間近と思っていましたが、結局開花までには至りませんでした。さらには、葉っぱが枯れてくる朝顔もありました。「やっぱり冬には咲かせられないのかな」と子どもたちの中でもあきらめムードが漂っていたように感じました。Sさんは、「昼間は暖かくても、夜や朝が寒からあさがおさんは花を咲かせるパワーが出ないんだよ。ずっと暖かくしなきゃ」と話してくれました。確かに、ビニールハウスの中の気温は、朝は10℃以下の日が多かったのです。ずっと暖かさを保つことが難しいということや冬休みに入るということもあり、1度朝顔を家に持ち帰ってもらうことにしました。

そうして2週間の冬休みが明けると、次々と開花の報告がありました。休み中もしっかりとお家で環境を整えていただいたお陰です。花が咲いた子どもたちに咲いた時の気持ちと、どうして咲いたのかを尋ねました。Kさんは、「毎日咲いてね！ってお願いしたんだ。だから、花が咲いた時はすごくうれしかったよ。水をあげることで、部屋を暖かくすることで、太陽にあたるようにしたからお花が咲いたと思う」と答えてくれました。Mさんは、「前に咲いたあさがおさんより、小さいお花だったけど、とてもきれいだった」と話してくれました。もう花



は咲かないかもしれないと思っていただけに、この開花報告は子どもたちの中に大きな希望を与えてくれました。「自分たちがしたことはすごいことだと思う」と話すHさん。「どうして？」と問うと、「だって、冬にもあさがおさんを咲かせることができたんだよ」と興奮気味に語ります。Tさんは「冬にもあさがおさんに会えたね。嬉しいね」と喜びを噛みしめている姿がありました。このような子どもたちの背景には、今年1年をかけて、朝顔との暮らしを大切にしてきた日々があります。思いをかけてきたからこそ、冬に咲いた朝顔との出会い直しは、ひと際嬉しかったように感じます。

「これはなんの種類の花だろう？」と子どもたちに聞くと「絞り咲き朝顔だよ」という子もいれば、「桔梗咲き朝顔だよ」という子もいました。確かに、模様は絞り咲きですが、形は桔梗咲きのように見えます。すると、Bさんは「絞り咲きと桔梗咲きのミックスだよ。DNAのミックスだよ」、続けてSさんが「進化したんだよ。ポケモンでいうビルドアップだよ」と叫びました。これを受けてNさんは、「たしかに、いろいろな朝顔があったから花粉が飛んで混ざったのかもしれないね。私もパパにもママにも似てるミックスだから」と話しました。色々な憶測が飛び交いましたが、2代目のあさがおさんが初代のあさがおさんとは違うことから、子どもたちの話し合いは続いていきました。

「冬に朝顔は咲くのだろうか？」という問いは「思いをもって育てること、あさがおさんが快適に過ごせる環境を作ってあげることで咲く」というみんなの納得のいく答えで幕を閉じました。きっとこれからも、子どもたちは何度でも朝顔と出会い、そして大切に育てていくことでしょう。



あさがおさんとの最後を考える

「あさがおさんのお陰で、ぼくたちはいろいろなことをさせてもらったね」と語っていたGさん。5月から朝顔を暮らしの真ん中において活動してきた子どもたちは、朝顔との暮らしをどうやって閉じていくのか、みんなで話し合うことにしました。たくさん活動をしてきた中で、「残された巨大リースをどうするのか？」ということが議題に上がっていきます。「ギネス記録に挑戦もあるけど、やっぱりあんなに大きいものを置いておくところもないし、来年の1年生も邪魔になっちゃって困るから…」というTさんの言葉を受けて、「燃やしてあげて、お墓に埋めてあげたらどうかな？」とYさんが話します。すると、Rさんが自分の経験を語り出していきました。

Rさん:あさがおさんのお葬式だね。ひいばあばのことを思い出しちゃった。この前、ひいばあばのお葬式をしたんだ。お別れするのは悲しかったのを思い出した。

Yさん:悲しいよね。でも、そのままにしておく方がかわいそう。燃やしてあげたら、煙になって天国か地獄に行くんだよ。あさがおさんは、ぼくたちにたくさんいいことしてくれたから天国に行くんだよ。

Sさん:それじゃあ残った灰を埋めてあげて、そこにお墓をたててあげようよ。

Kさん:死んでしまった人の骨をお墓に入れてあげるもんね。あさがおさんの灰を埋めてあげるのいいと思う。

教師:Kさんが今言ってくれたんだけど、お墓って生き物(人とか動物とか)のために作るんじゃないの?

Sさん:あさがおさんは生きてるよ!植物は動いて成長しているし、心があるんだよ。心があるってことは生き物だよ。

Nさん:そうだよ!生きてるに決まってるじゃん。わたしは、元気にいっぱい育ててくれてありがとう。嬉しかった思い出はあさがおさんのおかげだよって伝えて、お葬式をしてあげたい。

「あさがおさんには心があるんだよ」という言葉を聞いて、子どもたちにとって朝顔という存在は、単なる植物ではなく、家族のようにかけがえのない存在なのだという感じました。1年間の朝顔との暮らしから『対象(あさがおさん)とのかかわりを通して、自分事として動き出し成長していく子ども』の姿を見たように思います。

ありがとう あさがおさん 天国でも咲き続けてね



自然体験園にあさがおさんのお墓ができました



～ありがとう あさがおさんのうた～
 たねをうえてから ずっとずっとなりにいた
 めがでて 花がさき かれて たねに生まれかわる
 冬になっても リースになって
 みんなにえがおの 花をさかす
 ありがとう あさがおさん
 おわりのない あさがおさん
 あたらしい いのちを
 つないで さきつづけてね

